

## 中学校橋検討委員会（第1回）

令和5年7月4日（火）9時00分～

役場 301・302・303 会議室

### ○次第

1. 開 会
2. あいさつ
3. 委員会について説明
4. 委員会成立宣言
5. 検討委員自己紹介
6. 委員長選出
7. 協議事項
  - (1) 富士見町のインフラ維持管理状況や中学校橋の今後の検討案の説明
  - (2) 質疑
8. その他
  - ・現地視察（希望する委員を対象）
9. 閉 会

### ○参加者

委員23名中、18名参加（5名欠席）

### ○質疑応答状況

順	質問・意見	回答
1	5月に検討委員会が立ち上がる話だったが、なぜここまで伸びたのか	4月の役場の人事異動、5月の議員選挙を待っての人選であったため、どうしてもこの日の開催となった。遅くなってしまったことについて申し訳ない。
	地元区としては、なんとしても車道橋を残してもらいたいと考えている。	ご意見として承る。このようなご意見がある事を踏まえて委員会の中で協議いただければと思う。
2	「橋梁マネジメント」内の機能集約化について、具体的な意味とは	橋に求められる機能として、人が渡ることがある。その機能を他の橋に集約化させようというもの。つまり、撤去を行うような話となる。
3	国費の返還の必要性について詳しく。	架替については。実施を検討すべき修繕や架替、撤去などのLCC比較検討が必要であるため、国費の返還の必要はない、第2、3、5案の修繕関係については撤去を実施しないため、撤去設計に関わる国費約300万円の返還の可能性がある。また、第5案に関しては補修設計で行った修繕ではなくなるため、その修繕設計に関わる国費1400万の返還が可能性としてある。方針が固まり次第、県と協議を重ねていく。

4	<p>修繕にて耐震補強を行うが、中学校橋は軟弱地盤の上にあると聞いた。30年以内に地震が起こった場合対応できるのか。</p>	<p>今の中学校橋はプリンの上に乗っている形であり、東日本大震災のような地震が起こった場合、線路へ落橋する可能性は十分ある。なので、修繕では現行の道路橋示方書に則り橋台に杭を差し込み、計算上落橋しないような措置をする。</p>
	<p>第4案の架替はその耐震を考慮しつつ、100年確実に保つようなものを作るといった解釈で良いか。</p>	<p>現行の道路橋示方書に従い。落橋しないような措置をする。橋梁の耐用年数100年確実に保つかということについては、架設場所の条件によるため、確実に保つとは言い切れないが、道路橋示方書に従い100年保つような設計で架設を行う。</p>
5	<p>中学校橋の各案についての見積もり先については複数実施し妥当性について検証したか。</p>	<p>橋を新設するだけなら見積もり先を複数取れるが、肝心のJR線路内という特殊な空間での安全費の見積もり先は限られるため、どうしても見積もり先は限られる。今回はJR工事設計の実施を多く持つJR東日本コンサルタンツ株式会社へ見積もり依頼した。</p>
	<p>中学校橋について、今後人口減少が見込まれる中で新設等した場合どのくらいの通行量が見込まれるか検討したか。</p>	<p>町で作成している人口推計があるが、今回の委員会では資料が用意できていないため、第2回に本質問については回答する。</p>
6	<p>中学校橋新設の架設方法について、例えば踏切をつけるとか、または秋葉神社裏からコミプラへ繋ぐ道を作るとかすれば、クレーンのサイズも小さく収まると考えるが検討しているのか。</p>	<p>基本設計にて検討する条件4にあるように、用地買収を伴うような工事は検討していない。あくまで町有地か、借地可能であろう土地内での作業を想定している。次回までに詳しく説明する。</p>
7	<p>この委員会について、中学校橋についての各案について、委員会で一つに決定するという事か。</p>	<p>様々なご意見をいただいて、その内容を考慮し最終的には町長が決定する。あくまで意見を求める場であり、方針を決めていただく場ではない。</p>
8	<p>中学校橋について、町の施設全体の維持管理の中で考えるべきではないか。</p>	<p>その通りであり、学校の統廃合の問題も踏まえ町全体で考えていきたい。検討委員会でぜひ協議いただきたいところであり、事務局へ質問しながら確認・検討してほしい。</p>